

神経病態解析学

セミナー シリーズ

Awajiroの
わがままセミナー

本セミナーは、HBS研究部・神経病態解析学分野（准教授・笠原二郎）が不定期に主催するセミナーシリーズで、聴衆（特に若者）への刺激とブレインストーミングを目的に、ジャンルを問わず各界の最前線でユニークな活躍をされている方々をお招きし、お話し頂きます。研究部の多くの学部生・大学院生・教職員の参加をお待ちしております。

連絡先：笠原 二郎 awajiro@tokushima-u.ac.jp
Tel&Fax: 088-633-7278 (学内 6256)

薬学部 FD 委員会と共催

シリーズ第16回 演者：田中 理絵 博士

山口大学・大学院教育学研究科(人間教育学)・准教授

演題：家族崩壊と子どものスティグマ

—児童虐待政策の方向について—

開催日時：2014年10月17日(金) 17:00 – 18:30

開催場所：薬学部 2F 第4講義室(階段・エレベーター東側)

山口大学の田中理絵博士は、子どもの社会化・家族病理・スティグマなどを研究対象とする、気鋭の教育社会学者で、国会で参考人も務められました。近年、特に社会的問題となっている児童虐待は、子どもの健全な発達を阻むことは言うまでも無く、神経発達の観点からも様々な脳機能障害につながる大きな問題です。今回は社会学的観点から標記演題でご講演頂きます。

講演要旨

従来の人間発達論では、大人は完態であり、子どもは教育されるべき対象とされてきた。しかし近年の発達論では、大人になっても発達課題は続き、子どもも主体的存在であると考えられるようになってきた。しかしいずれにしても、子どもの発達には家族が必要なので、児童虐待や家族崩壊を経験した子どもには「失敗」という負の烙印（スティグマ）を押される傾向があった。

今回の講演では、家族崩壊・児童虐待を経験した子どもたちのコトバから、彼／彼女らがどのような社会的困難を抱え、あるいはその理不尽さをどのように乗り越えるのが妥当であると考えられるのかなど、子どもの主観的側面についてお話ししたい。

そのうえで、近年の児童虐待や家族崩壊に対する社会的政策の方向の問題点についても議論したい。